

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,430	t-CO ₂
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		2,430

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	2,316	t-CO ₂	2,247	t-CO ₂	2,308	t-CO ₂	2,340	t-CO ₂	2,430	t-CO ₂
削減率（対基準年度）			3.0	%	0.3	%	▲ 1.0	%	▲ 4.9	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの排出量	70.57	kg-CO ₂ / m ²	68.45	kg-CO ₂ / m ²	70.32	kg-CO ₂ / m ²	71.27	kg-CO ₂ / m ²	74.02	kg-CO ₂ / m ²
削減率（対基準年度）			3.0	%	0.4	%	▲ 1.0	%	▲ 4.9	%
原単位あたりのみなし排出量						kg-CO ₂ / m ²		kg-CO ₂ / m ²		kg-CO ₂ / m ²
削減率（対基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

温室効果ガス総排出量、原単位あたりの排出量のいずれも目標値に達することができなかった。気候変動の影響による空調使用の増加が原因であると推測できる。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
ハイドロフルオロカーボン等の排出抑制	①フロン類充填機器の定期点検を実施する。 ②地球温暖化係数が低いや温室効果ガスに該当しない機器への転換を推奨する。 ③フロン類充填機器の適正管理・適正処分を徹底する。	フロン類充填機器の適正な管理を行い温室効果ガスの漏洩を防ぐ。	フロン類充填機器の適正処分に取り組んだ。
省エネルギー、省資源活動の推進	①冷暖房温度の適正值設定（冷房28℃、暖房20℃） ②クールビズ、ウォームビズの推奨 ③空調稼働時の扉の開閉の周知 ④屋上緑化、グリーンカーテンの設置 ⑤不要照明の消灯	電力使用量を前年度比1%削減する。	電力使用量を前年度比1%削減のため冷暖房の管理に加え衣類等の調整に取り組んだ。
環境教育	①環境保全の啓発活動を実施する。 ②学生ワーキングにおける環境活動を実施する。 [クリーンアップ大作戦] [打ち水大作戦] [キャンドルナイトの実施] ③環境フォーラムを実施する。	環境教育活動を実施し、環境保全への意識向上と具体的な取り組みを推進する。	クリーンアップ大作戦等の環境教育活動を実施し、環境保全への意識向上に取り組んだ。
自動車利用における取組	①公用車更新時に、低燃費車・低公害車を選定する。 ②定期点検・整備を実施し、公用車の性能を維持する。 ③キャンパス間の移動において、公共交通機関や自転車の利用を推奨する。	燃料（ガソリン・軽油）の消費量を前年度より削減する。	燃料（ガソリン・軽油）の消費量の軽減するため公共交通機関の利用を推進した。
廃棄物の排出抑制等	①会議資料等のペーパーレス化 ②紙資源の分別廃棄、購入量・廃棄量の公開 ③3Rの周知 ④廃棄物分別廃棄の周知	一般廃棄物・産業廃棄物の排出量を前年度より削減する。	廃棄物の分別に取り組んでいる。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

次の産業廃棄物について、適正に再資源化できる業者へ、有価物として引き渡した。 ①パソコン及びその周辺機器 ②計測機器等 ③金属製粗大物、金属の切削くず
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・学生の環境活動としてクリーンアップ大作戦、キャンドルナイト等のイベントを実施した。
--